

事業名 高校生のサードプレイス「みつカフェ。」

事業主体 名称：一般社団法人ぐるーん
住所：岡山市北区下伊福西町 7-32-309

事業実施場所 岡山御津高等学校

～事業を始めるにあたって～

さまざまな家庭背景や課題を抱える生徒に対して、教員だけではなく、より多様な地域の大人による関わりやサポートが必要とされているというお話を高校の教員から聞いた。当団体はこれまで社会的養護の必要な子どもたちへの支援を中心に活動してきたが、社会的養護に至る前の段階で困難を抱える子どもと関わり、支援を届ける必要性を感じていたことから、他県で行われている居場所カフェを始めることにした。手作りの料理やワークショップの体験を提供し、健康面と精神面のサポート、安心できる空間、多様な体験の機会を提供することで、高校生の学校生活や大人への信頼感構築に寄与したいと考えた。

～事業実施内容～

居場所づくり

- ① **事業名** みつカフェ。
- ② **参加人数・日時**

実施日時	参加生徒数	スタッフ人数
7月7日(水)11:00～13:00	65人	11人
7月19日(月)11:00～13:00	57人	14人
10月4日(月)15:30～17:20	55人	10人
10月15日(金)12:30～13:15	82人	13人
10月20日(水)12:30～13:15	20人	4人
10月25日(月)15:30～17:00	50人	9人
11月5日(金)15:00～17:00	59人	9人
11月10日(水)12:30～13:15	35人	5人
11月19日(金)15:00～17:00	47人	7人
11月25日(木)12:30～12:15	45人	4人

12月1日(水)12:30~13:15	47人	4人
12月7日(火)10:40~13:40	75人	13人
12月15日(水)12:30~13:15	45人	5人
12月24日(金)10:30~12:30	56人	13人
1月11日(火)10:15~12:30	53人	10人
1月31日(月)9:30~10:30	60人	4人
2月16日(水)15:30~16:30	43人	4人
2月25日(金)10:40~11:40	55人	3人
2月28日(月)11:00~12:00	50人	4人
延べ人数	999人	145人

③ 場 所 岡山御津高等学校（生徒ホール・駐車場）

④ 内 容

放課後や昼休みに生徒ホールで居場所カフェを開催し、フードバンク等から提供された食材を提供し、さまざまな大人がスタッフとして参加し、生徒とスタッフ、または生徒同士で交流をした。生徒に準備を手伝ってもらったり、ギター演奏、ハンドケア、カードゲームのワークショップなどを開催し、多様な体験の機会を設けた。クリスマスにはコンサートを行った。毎回アンケートを配布し、生徒の悩みやその時々のお気持ちを書いてもらった。



⑤ 活動の成果等

回を重ねるごとに安心して参加し、スタッフと交流する生徒の様子が見られ、常連になった生徒からは様々な悩みを聞くことあった。他人とのコミュニケーションや家庭での食生活などが気になる生徒には教員からの声かけによって、カフェに来れるようになった生徒達もいる。生徒のアンケートからは、息抜きができる場として居場所カフェがあることが嬉しいという声が沢山寄せられた。

スタッフ研修会

- ① 事業名 育成学習会
- ② 参加人数 1回目 9名 2回目 8名
- ③ 日時 1回目令和3年9月21日 14～16時 2回目令和4年2月27日 13～17時
- ④ 場所 いずれもオンライン (zoom)
- ⑤ 内容

1回目 講師：石井正宏氏 (NPO 法人パノラマ代表)

内容：神奈川県で高校居場所カフェを10年続けているNPOパノラマの石井さんを講師に、第三の居場所を運営するための心得や若者たちの状況や課題について、お話を聞いた。

2回目 講師：壺内昌子先生 (岡山市発達障害支援センター)

内容：CAREプログラムの講習会



⑥ 活動の成果等

1回目 学校でも家でもない第三の居場所があることの意義や、大人と生徒が上下関係になるのではなく、時には生徒に大人が教えてもらうような関係性がよいこと、具体的なカフェの運営の仕方などがわかり、みつカフェの参考にすることができた。

2回目 子どもとの関係性に重要な点について、壺内先生 (岡山市発達障害支援センター) から、オンライン講座と数人で組になって行うワークショップを行い、子どもが心を開くような言葉がけ、子どもが問題行動を取った際の「戦略的無視」などについて、スタッフの理解が深まった。

～事業を終えて～

○事業実施による効果

飲食を伴うカフェの場を開設することによって、生徒が気軽に足を運び、学校生活の中でほっとできる空間となり、様々な大人がスタッフとして関わることによって、生徒の生活や進路の悩みを聞いたり、生徒を元気づけることができた。また、実施中に食生活が心配な生徒がいることがわかり、

その課題に応えるための「ひるカフェ」を始めたり、校内に食材提供コーナーを設けることができた。卒業後にもコンタクトをとれるよう、公式 LINE も開設することができた。取材を 5 回ほど受け、新聞やテレビで紹介され、高校の居場所づくりの活動を周知できる機会となった。アンバサダーの生徒が高校の紹介動画を作成した際に、御津高校の魅力の一つとして「みつカフェ。」を動画で紹介してくれた。

○今後の課題・展開

今年度はコロナ禍の影響で、ホール内で開催できない時期や、ホール内の活動への制限があった。そのような中、配布形式に切り替えるなどの工夫をして活動を続けることができたが、生徒との関係をより深める取り組みを重ねることで、より充実した居場所づくりの継続が求められている。

○まとめ

県内で初となる高校居場所カフェとして方法を手探りしながら運営をしたが、様々な団体から食材提供の協力を受けることも出来、スタッフと生徒が徐々に打ち解けて、足を運びやすい居場所にしていくことができた。学校内の居場所であることから教員の理解や協力も不可欠だが、足を運ぶ教員も増え、また教員と様々な課題を抱えている生徒について情報共有できるようになったことで、生徒との関わりに活かすこともできてよかった。学校でも家庭でもない第三の居場所があることは、生徒にとっても、教員にとっても、地域の大人にとっても、繋がる場や交流の場として、様々な可能性があると思われる。